

名古屋柳城短期大学
2019年度 第三回 信州リトリート 報告書

名古屋柳城短期大学 キリスト教センター



協力:特定医療法人 新生病院、小さな絵本美術館
新生礼拝堂、日本聖公会中部教区センター

目次

巻頭言 第三回信州リトリートの継続性と発展性	1
2019 年度 第三回信州リトリート 活動概要	3
写真で綴る 2019 年度信州リトリート	4
参加者の感想	
参加学生のことば	
-卒業生	8
-保育科・保育専攻	10
-保育科 2 年生	12

種蒔き

柳城学院 創設者
マーガレット・ヤング

翼ひろげた天使が
愛と心理と光明との
種子をひと粒手に持つて
飛ぶのを止めて考えた。
「これが大きくなったなら、
すばらしい実がなるように、
どこへ蒔いたらよいだろう」
救い主さま、それを聞いて、
にっこりわらっておっしゃった。
「私のために、その種子を
子どもたちの心に蒔いておくれ」

第三回 信州リトリートの継続性と発展性

名古屋柳城短期大学キリスト教センター センター長 村田康常

第3回信州リトリートは、8月25日(日)から8月27日(火)までの3日間、名古屋柳城短期大学の学生9名と附属幼稚園教諭の卒業生1名、教員5名が参加して、長野県上高井郡小布施町の新生病院ならびに新生礼拝堂を拠点にして実施されました。この「信州リトリート」は、2016年度まで続けられた東日本大震災復興支援ボランティアに続く企画として始まりました。キリスト教の教会において「修養会」と訳されることもあるリトリートは、日常の現実を離れて、違った環境に身をおいて自分自身を見つめなおしたり周囲の人との関わりのある方を問い直すような活動です。2泊3日のリトリートは、日本聖公会というキリスト教会に連なる柳城と新生病院との貴重な交流の時間にもなっています。次年度から新たに4年制の女子大学が開学する柳城学院では、聖公会のつながりの中でのこのような活動がますます重要なものになっていくと確信しています。

今年の信州リトリートは、特記すべき2つの出来事に彩られていました。1つは、人との出会いです。昨年・一昨年のリトリートで出会った新生病院や関連施設の方々、新生礼拝堂のみなさまとの再会が果たされ、また、思いがけない邂逅や新たな出会いがありました。特に、初日に立ち寄った長野県岡谷市の「小さな絵本美術館」では、館長で絵本作家のさとうわきこさんにお話をうかがい、全員が絵本にサインとイラストを描いていただくという、保育を学ぶ学生や卒業生の保育者や保育科の教員にとって至上のひとときを過ごすことができました。『はばばあちゃん』や『せんたくかあちゃん』などの絵本作品で知られるさとうさんと、事前に連絡をしていたとはいえ、長時間にわたって作品や創作活動や幼少期の思い出などについて、じっくりとお話をうかがうことができたことは、ほんとうに嬉しい驚きでした。

新生病院では、昨年・一昨年に訪問した通所リハビリテーションや緩和ケア病棟、病院に付設された保育園、複合型介護施設も訪れて、子どもから高齢者までさまざまな方々との出会いと交わりの時間をもつことができました。また、新生礼拝堂の方々とも、夕食会とその準備などを通して、再会を喜び、旧交を温めるような親しい交わりの時をもつことができました。参加した学生たちがどのような再会と新たな出会いを果たしたのかは、この報告書にそれぞれの言葉で書かれています。その文章からは、一人一人が大きな恵みをいただいたことが伝わります。

学生たちの多くは二度目の参加で、準備段階から手慣れた様子で、自発的にアイデアを出し合っただけでなく、そこで出会う方たちとの触れ合いに心を開いて、深い交わりのときをもつことができましたように感じます。

二つ目の特記事項は、リトリートの活動そのものが終わってからやってきました。巨大な台風19号が本州に上陸し、各地に甚大な被害を及ぼしました。小布施町を含む千曲川流域では堤防が決壊して濁流が広範囲にわたって氾濫し、大きな被害を出しました。その報に触れて、リトリートでお世話になった小布施町や長野市の現地に行っただけでなく、そこで出会う方たちとの触れ合いに心を開いて、深い交わりのときをもつことができましたように感じます。

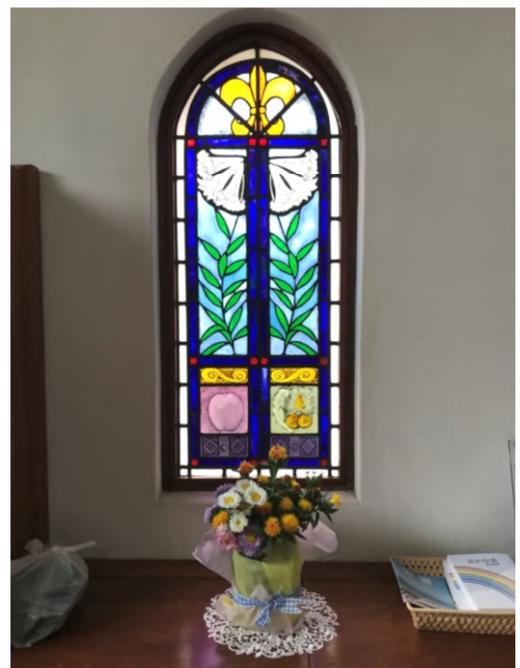
昨年と比べて少人数での実施となりましたが、今春に卒業して附属幼稚園に勤務する卒業生が、園の了解を得てボランティアとして参加し、後輩たちに保育者として子どもたちに関わっていく姿や企画準備の際の見通しをもって進めていく手際などを示して、大きな刺激を与えてくれました。報告書に見るように、多様な個性をもった学生たちが、それぞれに活躍の場をもち、感動と学びを重ねることのできた活動だったと思います。

今年もこの貴重な経験と学びの機会をいただくことができたのは、学内外の多くの方々のご理解とご支援によります。特に、東日本大震災の被災者支援依頼、本学キリスト教センターを継続して支援してくださっている「メリット基金」による多大なご支援は、この活動を支えるほとんど唯一の財源となっています。理事のみなさまの深いご理解とご支援を心より感謝いたします。さらに、今年は柳城学院が主催する「マーガレット・ヤング基金」

からも援助をいただきました。柳城の創設者の名前を冠したこの基金が、リトリート活動を、建学の精神を受け継ぐ活動として認めて、支援して下さることを大きな恵みとして受けとめ、創設者のあゆみにならってこの活動をしっかりと進めていこうと気を引き締めました。

新生病院チャプレンの大和孝明先生には、今年も事前訪問や連絡を取り合う準備段階から現地での3日間の活動まで、数か月にわたって私たちを支え、励まし、実際のスケジュールや現地でのコーディネートや連絡交渉を担ってくださいました。大和先生のお働きなくして、このリトリート活動は成り立ちません。このリトリート活動の初年度にお世話になった日本聖公会中部教区の金善姫司祭にも、変わらないご支援をいただきました。そして、小布施町の新生病院のみなさま、ことに、詳しいレクチャーをしてくださった徳竹秀子さんと、緩和ケア病棟のみなさま、通所リハビリテーションのみなさま、心づくしのもてなしをしてくださった新生礼拝堂の信徒のみなさま、小布施複合型介護施設のみなさま、ミス・パウル保育園の先生方と子どもたち、そして、岡谷市の小さな絵本美術館のさとうわきこ館長に、心からの感謝とお礼をお伝えしたいと思います。

新年度にふたたびみなさまと出会いを果たし、名古屋と信州小布施の地にまかれた日本聖公会の二つの種がともに助け合って成長し、新しい歩みを重ねていくことを、大きな希望とともに期待したいと思います。台風被害からの一日も早い復興をお祈り申し上げます。



2019年度 第三回信州リトリート 活動概要

期間 2019年8月25日(日)～27日(火)(2泊3日)

参加者 名古屋柳城短期大学の学生と卒業生 10名 引率教員 5名

(保育専攻科1年生2名 保育科2年生7名 卒業生1名)

活動内容 長野県小布施町の新生病院・新生礼拝堂・ミス・パウル保育園および小布施複合介護施設にてボランティア活動、岡谷市の小さな絵本美術館で原画展見学

	1日目 8月25日(日)	2日目 8月26日(月)	3日目 8月27日(火)	
			06:30 起床、朝食づくり	
7:00		07:00 起床、朝食づくり	07:00 朝食	7:00
		07:30 朝食		
8:00	08:15 バス着		08:00 ミコンサート等準備	8:00
	08:30 学生 南門内集合 08:40 発 バス出発	08:30 朝の祈り	08:30 朝の祈り	
9:00		09:00～09:30 設定保育準備	09:00～09:45 スタートハウスの清掃ボランティア	9:00
		09:30～10:30 ミス・パウル保育園 設定保育	10:00～10:45 小布施複合介護施設でのミコンサートと ハンドマッサージ	10:00
10:00	10:00 着 10:15 発 恵那峡 SA			
		11:00～12:00 レクチャー：新生病院の歴史と緩和ケア	11:00～11:45 新生礼拝堂の清掃ボランティア	11:00
11:00	11:15 着 11:45 発 駒ヶ根 SA 車中で昼食			
12:00		12:00～13:30 昼食	12:00 発 新生病院出発	12:00
	12:50 着 小さな絵本美術館	メイプルのお弁当（スタートハウスで）	12:15～13:15 昼食	
13:00		13:30～ ハンドマッサージ/ミコンサート準備	買物	13:00
		14:00～14:45 通所リハビリでのミニコンサート、ハンドマッサージ	13:30 発 小布施	
14:00			14:30 着 15:00 発 姥捨 PA	14:00
		15:00～16:00 緩和ケア病棟でのミコンサートと ハンドマッサージ		15:00
15:00	15:30 発 小さな絵本美術館	一部スタートハウス		
16:00		16:00～17:30 全員 スタートハウスで新生礼拝堂信徒様と夕食準備	16:30 着 16:45 発 恵那峡 SA	16:00
17:00	17:15 着 新生病院 スタートハウス			17:00
	17:45 発 新生病院 スタートハウス	17:30 夕の祈り		
18:00	18:00 着 小布施あけびの湯	18:00～19:30 新生礼拝堂信徒様との夕食（ミニコンサート）		18:00
		食事の片付け	19:00 着 本学帰着	19:00
	19:50 発 小布施あけびの湯		19:30 解散	
20:00	20:00 着 新生病院 スタートハウス	20:20 発 スタートハウス		20:00
	祈り 設定保育とミコンサートの準備	20:30 着 小布施穴観音の湯		
21:00		温泉		21:00
		21:50 発 小布施穴観音の湯		
22:00		22:00 着 スタートハウス		22:00
	23:00 就寝準備	22:30 ふりかえり・就寝準備		



小さな絵美術館

誰よりも、絵本作家さとうわきこさん
にお会いできて感激したのは
村田先生でした



ミス・パウル保育園

園児とふれあいの中から



デイケアセンター

利用者の方との合唱は、「信濃の国」
が一番大きな声が出ていました。

故郷
二兎追いしか山、
小鮒釣りし川の川、
夢は今もめぐりて、
忘れがたき故郷。
二いかにいます父母、
つつがなしや友がき、
雨に風につけても、
思いいずる故郷。



緩和ケア病棟

ベッドサイドでハンドマッサージを行いました。
笑顔が忘れられません。



複合施設

入所者の方々に音楽を聴いてもらいました



新生礼拝堂（小布施）

木造、フランス茅葺、平屋のゴシック様式です。アーチ形態が素敵です。



参加学生のことば(1)

-卒業生-

目には見えない肝心なこと

名古屋柳城短期大学 附属柳城幼稚園 教諭
黒岩 菜由

「かんじんなことは、目に見えないんだよ」。これはフランスの作家、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』¹に出てくる主人公、王子さまの言葉です。そして、新生病院チャプレンの大和孝明先生が「大切なことは目に見えない」と、礼拝で伝えてくださった言葉でもあります。では、王子さまのいう「かんじんなこと」とは何なのでしょう。

私はこの春、専攻科保育専攻を卒業し、夢であった幼稚園教諭としての人生をスタートさせました。不安や悩みを抱えながらも、温かい職場環境に恵まれ、愛おしい子どもたちと毎日を過ごしています。学生時代、毎年夏にはこのリトリートに参加し、信州の地で出会う方々との交流から、人と人との繋がりや、自分を見つめ直すことの大切さを経験してきました。学生時代、そして現在に渡り大変お世話になっている先生にお声かけいただき、今年度も卒業生として参加する運びとなりました。柳城の後輩たちや尊敬する先生方と一緒に活動する中で、4月からの自分を見つめ直したい、そして、毎日子どもたちや保護者の方と関わる保育実践者として、今までとは異なる視点で2泊3日を過ごしたいと心に決め、当日の朝を迎えました。

2017年にスタートし、今年で3度目となった信州リトリートですが、このリトリートにテーマをつけるのであれば、私は「人と人との出会いと触れ合い」とつけます。ミス・パウル保育園で出会う子ども、新生礼拝堂の信徒の皆様、新生病院で出会う高齢者、幅広い年代の方々と出会い、設定保育や食事会、ハンドマッサージ等の活動を通じた触れ合いは、毎年私たちの中で大きな学びと、経験を育んでいったように感じます。

初日は小布施へ行く途中、絵本の原画が展示されている、小さな絵本美術館を訪れました。美術館では、人気シリーズ「ばばあちゃん」の作者で、小さな絵本美術館の主宰者である、さとうわきこさんにお会いすることができました。絵本製作の秘話や、読者である子どもたちへの思いをお話ししていただき、絵本が大好きな私たちにとって、嬉しい旅の始まりとなりました。

2日目の午前中に実施したミス・パウル保育園での設定保育は、夏季休業期間を利用して後輩たちが準備してきたプログラムを行いました。絵本をモチーフにした大型ペープサートのシアターは、前日の夜まで試

行錯誤の繰り返しでした。四方八方から意見が飛び交い、その場所から生まれてくる原石のようなアイデアは、練習を積み重ねる中で、次第に磨かれていきました。保育科の学生が中心となって活動を進めながらも、要所所で専攻科生がアドバイスを加えたり、後輩たちを引っ張る姿は、このリトリートならではの。教え、教わるこの時間は、彼女たちにとって貴重な経験になってのではないかと思います。計画を立て、準備をし、練習をして、計画を見直し、反省するこの営みは、まさに私が4月から経験している保育そのものです。夏休み中、そして前日練習で、これから出会う子どもたちを想像しながら話し合い、変更を繰り返した彼女たちの経験は、きっとこれからの保育者としての人生に生きてくると思います。私にとっては後輩たちと共に活動したことで、自分自身の保育に対する意識や、計画の立て方、その場での臨機応変な対応、そして何より自分の目の前にいる子どもを想う気持ちが大切だということ、改めて学んだ瞬間でもありました。

2日目には新生病院の通所リハビリ、緩和ケア病棟、3日目には小布施複合介護施設でミニコンサートとハンドマッサージを行いました。通所リハビリテーションフロアで行ったミニコンサートでは、利用者さんが一緒に歌ったり、手拍子をしてくださる姿もあり、緊張で強張っていた後輩たちの表情がほぐれていく様子が見て取れました。歌を歌う私たちの姿を温かく見守り、一緒に楽しんで下さる利用者さんの存在に、私たちは支えられているのだと感じました。通所リハビリテーションフロアでの活動を終えた後、後輩たちがハンドマッサージ中に利用者さんと交わした会話を伝えている姿から、利用者さんとの触れ合いの中で学び得たものの大きさに気づき、喜びに変えていくことで、人は成長していくのだと思いました。ハンドマッサージ中の利用者さんの笑顔は、間違えなく、私たちに大きなパワーを与えてくださいました。

緩和ケア病棟で出会った患者さんとの出会いは、人と関わる職業を選択した私にとって、人と人との繋がりについて再度考えるきっかけとなりました。手と手が触れ合うことで感じられる、患者さんの手のぬくもり、私の手を「ぎゅっ」と握り返してくださるときに感じる気持ちの変化など、言葉を介したコミュニケーションでなくても、心と心は通っていました。ハ

ンドマッサージの最後、私が「ありがとうございました」と伝えると、手を握り直し、目を開き、私の顔をじっと見てくださいました。心の繋がりは互いの感情を豊かにし、相手を思う気持ちだけでなく、自分自身の存在すらも大切に思えるようになる力があるのではないかと感じました。

小布施複合介護施設では、私にとって、大切な、大切な出会いがありました。その出会いは、ホーキンス先生時代の柳城の卒業生で、現在私が勤めている附属柳城幼稚園へ実習に来られていた大先輩との出会いでした。ハンドマッサージをさせていただきながら、当時の柳城の話、そして現在の柳城の話をしました。当時は全寮制だったこと、ホーキンス先生は厳しくも温かい人だったこと、柳城幼稚園は柳城生にとって大切な場所だということ、ご結婚されてからもいつも柳城のことを思っていたこと、どのお話も私にとっては新鮮で、興味深いものでした。そして何より、お話をされている時の表情がとても朗らかで、輝きを放っているかのような様子でした。頭にも心にも深く深く刻まれている宝物のようなお話を、私に伝えてくださっているときの優しい声、眼差し、温かいぬくもりを全身で感じ、柳城幼稚園の職員という立場でこの瞬間を過ごせたことに幸せを感じました。手と手が触れ合うと同時に、心も繋がり、向かい合って座るその場所を、温かくて優しい光が包んでくれているような感覚を覚えました。「この時間がずっと続けばいいのに」と、心の底から思いました。今年で創立120周年を迎える柳城幼稚園は、歴代の先輩方が築きあげてきた道があり、そこに集う子どもたちがいて、今があるのだと実感しました。こうして自分が柳城幼稚園に勤めていることの奇跡と、責任を感じました。

2日目の夕食は、新生礼拝堂の皆様と一緒にテーブルを囲み、楽しい時間を共に過ごしました。私たちのために美味しい夕食を用意してくださった新生礼拝堂の皆様のお話を考えると、お腹も心も満たされる、楽しい、楽しい時間となりました。3度目の参加となった私は、毎年お世話になっている信徒さんとの再会の時でもありました。4年間通った柳城を卒業し、今年は幼稚園の先生となってこの活動に参加していることを報告すること、私の新たな人生のスタートと共に喜んで下さり、信徒の皆様のお温かさに胸を打たれました。食後には大和先生ご夫妻のギターとリコーダー演奏、そして信徒さんのピアノを伴奏に聖歌を歌ったり、私たちがミニコンサートをしたりと、音楽を通じて楽しさを分かち合いました。幸せな時間は一瞬のように感じました。

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってこと。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」⁽¹⁾

私はこのリトリートに参加し、目には見えない「かんじんなこと」に何度も出会いました。ミス・パウル保育園で出会った子どもの笑顔、通所リハビリで一緒に歌ってくださっていた利用者さんの小さな手拍子、緩和ケア病棟でのハンドマッサージで私の手を握り返して下さった力強さ、新生礼拝堂の皆様と交わした言葉、そして小布施複合介護施設で「柳城」という一本の結びつきによる時代を超えた出会い、これら全てが私たちの心に確実に刻まれました。心に刻んだことは、目には見えません。王子さまが言う通り、「かんじんなことは、目に見えない」のです。しかし、目に見えないからこそ、心でつかみ、感じ、育むことができるのだと思います。保育という仕事は、まさに目では見えない心と心の繋がりの仕事です。リトリートに参加し、人と人との繋がりの尊さを再び感じると同時に、活動の中で自分を見つめ直し、自分を知ること、保育現場へ戻った時、今まで以上に子どもたちを愛せるのではないかと考えています。自分を愛せなければ、人を愛することはできません。「愛をもって仕えよ」という柳城の精神は、目には見えない肝心なこと、つまり相手（子ども）のために注ぐ時間や愛情を大切にする精神なのだとは私は解釈しています。幼稚園での勤務に戻り、子どもたちと関わる中で、子どもたちが自分を愛し、愛される経験ができるよう、私は保育者という立場で何ができるのか、自分に問い続けていきたいです。

「第3回信州リトリート」を企画し、いつも学生たちのことを温かい眼差しで見守ってくださった先生方をはじめ、この活動にご尽力くださった全ての方に感謝致します。ありがとうございました。私たちに大きな光を与えてくれるこの活動で出会った全ての人との繋がりが、今後も大切な時として続きますよう、子どもたちと過ごす日々の中で、願っています。

(1) サン＝テグジュペリ、内藤龍矢訳、『星の王子さま オリジナル版』、2000、岩波書店、p.1

参加学生のことば(2) -保育科・保育専攻- つながるころ

専攻科保育専攻1年
浅井 優花

今回初めて信州リトリートに参加しました。普段、年配の方と関わることも、ハンドマッサージやコンサートをする機会もあまりないので、とても貴重な体験となりました。

リトリートの活動の中でも、特にミニコンサートとハンドマッサージが、心のつながりを感じる事が出来ました。

ミニコンサートでは、童謡や聖歌、県歌を歌わせていただきました。一緒に歌ってくださったり、目を閉じて聴き入ってくださったりと、さまざまな様子で聴いてくださる方がいらっしゃいました。その様子を見て感銘を受け、更に心を込めて歌わせていただきました。中には涙を流して聴いてくださる利用者さんもいました。ベッドで寝たまま聞いてくださる利用者さんも曲に合わせて指を動かしたり、眠っていても県歌が始まるとパッと目覚めたりと、音楽の与える力の大きさを初めて直に感じられたように思います。

ハンドマッサージでの触れ合いや利用者さんとの会話を通して、自分のなかに“温かなもの”を得ることができました。ハンドマッサージで体温を分け合うこと、会話を通して心を通い合わせることの温かさを改めて感じる事ができました。

老人ホームのハンドマッサージにて、100歳の誕生日を迎えたばかりの利用者さんのハンドマッサージをさせていただきました。

その時に、ずっと「ありがとうね、ありがとうね」と笑顔で言ってくださって、うれしい気持ちが心の中いっぱいにあふれてきました。お礼とともにハンドマッサージの途中で、「申し訳ないね、ありがとう、もう大丈夫です。」とおっしゃいましたが、「まだやりたいので、やらせてください。」と言うと、また嬉しそうに笑ってくださいました。素敵な笑顔を見ることができて、やりがいを感じることができました。

集いの途中で職員の方に押しってもらって車椅子に乗っていらっしゃった利用者さんもいらっしゃって、その方のハンドマッサージもさせていただきました。その利用者さんが眠っていたので迷っていると、職員の方が「刺激を与えると起きるかもしれません」とおっしゃったので、他の利用者さんと同じように耳元で声をかけながらマッサージを行いました。すると、目は空いていなくても一度だけ手をギュッと握り返してくださった瞬間がありました。会話をしなくても手の温もりを通して気持ちが伝わったのではないかと思います。

また、ハンドマッサージをしながら会話をする中で、コンサートの事を思い出して涙を流す利用者さんもいらっしゃいました。そのお姿を見て、私自身も涙を流してしまうこともありましたが、気持ちを共有するという貴重な体験をさせていただきました。

今回のリトリートでの一つ一つの出会い

に感謝し大切にしていきたいです。そして、これからの保育で出会う子どもたち、これから出会う方々に今回得られた“温かなもの”を与えられるように愛をもって人と関

わっていきたいと思います。

そして、こころとこころの繋がりを大切にしていきたいです。

リトリートを通して学んだこと

専攻科保育専攻 1年 角谷 侑香

今回が私自身にとっては2度目のリトリート参加となりました。昨年と同様の活動もあり、また、昨年とは違う新しい活動もあって、さまざまな学びと発見のあった3日間となりました。

2日目のミス・パウル保育園での設定保育では、初めて会う子どもたちと関わることができました。保育時間をいただいて行った設定保育は、他学年の学生と共同で企画準備して行ったため、いつもとは違う発想が重ねられて、設定保育全体がより良いものとなったと感じました。保育の本番では、園児や園の保育者の方々が大型ペーパートでの受け答えを行ってくれたため、進行もスムーズになり、子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。

午後の活動で印象に残ったのは、緩和ケア病棟でのミニコンサートとハンドマッサージです。昨年は介護福祉専攻の先輩たちが訪問し、私たち保育科・保育専攻の学生は行けなかった場所です。そのため、実際に病棟に行くまでは緊張してしまし。しかし、コンサートでは患者様やご家族の方が一緒に歌ってくださり、上手だねと声をかけてくださいました。おかげでこちらの緊張も和らぎ、コンサート後のハンドマッサージでは、患者様とお話をし笑い合いなが

らゆっくりとした時間をもつことができました。その様子を見られた職員の方も、患者様の笑顔が見られたととても喜んでくださって、私もほんとうに嬉しい気持ちになりました。

夕方から新生礼拝堂の信徒様と食事準備と食事をとることが出来た。夕食会では知らなかったお話やこちらが大学でどのような勉強をしているのかなど、様々なお話をすることが出来たため、とても楽しい時間を過ごすことができました。

この2日目は、多くの施設で活動を行い、1日のうちで低年齢児保育の保育園から緩和ケア病棟まで、教会の方も含めて、とても多くの人とかかわることができました。このかわりから、自分にも人にできることがあることに改めて気づきました。また、こちらが相手に対して何かをすることばかりでなく、活動を行うことでこちらもたくさんものをいただいていることを知りました。

最終日となる3日目には、宿泊させていただいた新生病院のゲストハウス「スタートハウス」を清掃し、小布施複合介護施設でミニコンサートとハンドマッサージを行いました。そこで出会った利用者の方とは、ハンドマッサージを通して、個別に、たく

さん会話をすることができました。その方に来年も来てほしいと言っていただけて、活動まで行ってきた準備の時間はこの時のためだったのだと改めて感じました。

2泊3日という短い時間の中での活動でしたが、その中で出会うことのできた方々と語り合い、そうやってかかわることができたことを互いに喜び合って、笑顔を見ることができて、私自身も嬉しくなりました。利用者の方々が笑顔になると職員の方々も笑顔になって、それが私にも嬉しくて、より多くの笑顔を見ることができました。

参加学生のことば(3) -保育科2年生- リトリートでの出会いと交流

保育科2年
梅田 滯奈

私がこのリトリートで学んだことは、人との繋がりについてです。

まず、新生礼拝堂の信徒様と食事の準備をしたり、夕食会を楽しんだりした時のことです。夕食会の時は、新生病院に勤めていらっしゃる先生ともお話をしました。昨年のリトリートの話や柳城短期大学について、また今の保育者に求められている姿や保育者への待遇についてお話をしました。私がお話の中で印象に残っていることは、先生が「保育者は子どもたちの土台をつくらせている存在であるのに給与は少ない」と仰っていたことです。私たちは求人票を見て、妥当だと考えている給与ですが、ほかの立場の方から見ると違った考えが出ることは、リトリートに参加したからこそお聞きできたお話だと思いました。また先生から私たちが着ていた大学のTシャツに描か

リトリートを通して、他学年の学生と交流を深めることもでき、設定保育では、今まで自分ひとりでは考え付かなかった発想を得ることもできて、今後に生かせる機会となりました。たとえ人と会話することが苦手だとしても、笑顔で接することで私自身と相手の緊張をとることができ、少しずつお話しできるようになっていきました。この経験を通して、人と接する際の笑顔の大切さに改めて認識することができました。

れている「St.Marry's」についてご質問をいただきました。このお名前は柳城短期大学の創設者、マーガレットヤング先生のミドルネームです。私たちは事前にヤング先生のお名前を知っていたため、お答えすることが出来ました。私はこの質問をされたときに、大学のことを知っていてよかったと思いました。自分が知っていることが多いと、たくさんの人と話をするとき、話題を広げることができ、コミュニケーションをとれると実感しました。

リトリートで出会った方との交流で一番心に残っていることは、新生病院の通所リハビリテーションで出会った方です。なんとその方は昨年のリトリートの時にもいらっしゃいました。私に話しかけてくださると、「去年も聞いたのだけれど、私たちのために練習してきてくれて、ハンドマッサー

ジまでしてくれて、本当にうれしい」と言ってくれました。私も思わず涙が出てきました。昨年のことを覚えていてくださり、とても楽しみに待っていてくださったのです。リトリートでの30分ほどしかなかった中で、私たちのことを覚えていてくださったことは、夏休みに各々予定のある中で集まり、練習したことや、参加した学生の気持ちが、新生病院を利用されている方の心に届けることができたのではないかと思います。

また、新生病院の横にある通所リハビリテーションで出会った方は、ハンドマッサージの後にマニキュアをさせていただきました。1人目の方は、はちみつのような杏色の指輪をされていました。はじめは遠慮されていましたが、指輪と同じ色のマニキュアをお見せすると、それなら、と言っていただき、塗らせていただきました。完成をすると、自分で見たり、大学の教員や施設の職員に見せ、とても気に入ってくださっていました。その方にお別れの挨拶をしていた時には、目に涙をためながら、「ありがとう」と何度も言ってくれました。交流の場を作っていたいただいた私たちが感謝の言葉を伝えるつもりが、お礼の言葉をいただき、利用されている方も楽しんでいただけたのだと思います。2人目の方は、ほかの学生のハンドマッサージを楽しまれた方でした。マニキュアを塗りたいとのこ

とで私が呼ばれると、既にキラキラのマニキュアを塗られていました。キラキラだけで少し寂しいと思った学生が、上からもう1色透明なものを塗らないかとおすすめをしていたところでした。利用者さんははじめ、今塗ってあるもので十分だと仰っていました。そこで私がいくつか色を自分の爪に塗り、どの色がよいか選んでいただくことにしました。利用者さんが選んだ色は忘れてしまいましたが、私がもう1色塗らせていただきました。完成した爪は透明なマニキュアにキラキラが閉じ込められているようで、とてもきれいに出来上がりました。利用者さんも何度も爪を見られており、私たちにお風呂に入ったら取れてしまうのではないかとしたらお風呂に入らない、と仰っていました。自分の思いつきでありましたが、完成した爪を本当にうれしそうに見られている姿を見て、やらせていただいていたよかったです。

私は次の4月から就職が決まっており、リトリートに参加する機会はありません。しかし1年次、2年次と2回参加させていただいたことで、利用者さんや新生礼拝堂の信徒様方と人との繋がりについて、いろいろなことを学びました。2年間リトリートに参加できて本当に良かったです。



リトリートを振り返って

保育科 2年
本田 風花

私は今回、友達の誘いもあり初めてのリトリートに参加しました。設定保育の準備やミニコンサートの歌の練習、ハンドマッサージの練習など、私が思っていた以上に現地に行くまでの用意が多く、驚きました。リトリートに行く前は、ハンドマッサージの際にきちんと会話ができるのかという不安と、前回も行った子たちから聞いた、楽しい出来事への期待でいっぱいでした。

一日目に行った岡谷市の「小さな絵本美術館」では、『おいしいのぼうけん』の原画展を観ました。小さいときに読んでもらって、少し怖い思い出がある本ですが、いま読み返すと冒険心をくすぐられる面白い本だと思いました。原画を見ていてふと後ろを向くと、ねずみばあさんのとても大きいタペストリーがあって、そのときはほんとうに驚きました。美術館で一番うれしかったことといえば、「おつかい」や、「ばばあちゃん」を描かれているさとうきわこ先生にサインをもらったことです。一人ひとり絵本にサインを書いてもらう際に、さとうさんはサインペンで絵本の絵を描いてくださいました。その絵を友達同士で見せ合っことをしたのも、とても楽しかったです。

二日目の設定保育では、一緒にやる人たちと前日の夜に細かいところまで話し合っていたので、本番では間違えないようにと必死になっていたなと振り返ってみて思いました。しかし、いい意味で練習通りに行かなかったなとも思いました。たぶんこん

な反応をしてくれるんだろうと子どもたちの姿を想像しながら練習をしていたのですが、本番になると自分が思っていた以上に子どもたちの反応があり、練習の時よりもやりやすく、適度な緊張でやり遂げることができました。大型絵本の読み聞かせをしながら、じっと絵本を見て楽しそうにしている子どもたちを見て、頑張っ練習してきたかいがあったなと強く思いました。お別れのときのハイタッチでは、ハイタッチが楽しいのか元気いっぱいやってくれる子や、静かにそっとハイタッチをしてくれる子など、子どもたちの個性が現われていました。最後まで楽しんでくれたことが、何よりもうれしかったです。

二日目と三日目に通所リハビリテーション施設や緩和ケア病棟、高齢者施設で行ったミニコンサートとハンドマッサージでは、最初はとても緊張しましたが、コンサートの歌をみなさんがとても楽しそうに聞いてくださっている様子を見ているうちに、自分まで楽しい気持ちになったのを覚えています。ミニコンサートでは、聖歌を歌っているときはとても穏やかに聞いてくださり、「紅葉」や「ふるさと」といったみなさんが知っていらっしゃる曲になると一緒に口ずさんでくださったり手拍子をしてくださっているのを歌いながら見ていて、とても温かい気持ちになりました。その後のハンドマッサージでは、最初は何を話したらいいのかわからずおろおろしていた私ですが、歌の感想を話して下さったり、どこから

来たのかと尋ねてくださったりして、なにげない会話をしていくうちに、打ち解けていって、お孫さんの話や若いときの話をしてくださって、短い時間でも深い関わりがもてたことを実感しました。そして、相手の人にとっても今日が楽しい思い出として残ってくださればうれしいなと思いました。施設を出るときには、歌が素敵だったとか、

ハンドマッサージよかったよ、などとても温かい言葉をいただけて、来てよかったな、できれば来年も行きたいなと、そう思いました。

初めての信州リトリートで不安もたくさんありましたが、先輩や先生や同級生の助けもあり、とても楽しい思い出がいっぱいのリトリートになりました。

結局、行ってよかったってこと

保育科 2年
今泉 樹乃

自分にとって2回目となるリトリートに、私は様々な感情を持ち合わせた心に余裕のない状態で参加しました。しかし、その中で3日間の活動をやりきったあとに最初にしたことは、行くまではやはりマイナスの感情ばかりでしたが、現地での活動を終えてみたら不思議と来て良かったという気持ちに満たされたということです。そして、今、ひと月ほどあけてこの活動全体を振り返ると、リトリートに行って正解だったと思えるものでした。

そもそも私が今年参加したくないと思っていた理由は大きく3つありました。1つ目は夏休みを返上して準備しなくてはいけなかったこと、2つ目は全日予定が入っていたこと、3つ目は普段大学で関わっているようなタイプの仲間がいなかったために、波長を合わせなければならないという辛さを懸念したためでした。

しかし、今は結局、行ってよかったと実感しています。

足の怪我のために、半年以上も実習に行っていなかった私は、明らかにブランクを感じていて、リハビリ明けの次の実習がとても不安でした。そんな時期に、子どもともかかわる機会のあるリトリートに行くことができ、不安を引きずっていた自分の気持ちに多少とも区切りをつけることができました。そして、怪我をした足も順調に快復していて、ある程度はもうできる、ということを感じました。それは実習に向けて、これからの学びに向けて、自信へと繋がりました。

活動のなかでは、やはり現地に着いてから変更することや現場でのハプニング、直前での練り直しのような場面はたくさんありました。その一つ一つに対処する中で、やれる限りのことは直前でも試してみて、本番を迎えても難しいようならそれに対応した最善を尽くすといった対応力を、やらなければならないという現場での流れの中で身につけさせてもらったように感じます。

そして、現場に立っている先輩の、予想ではなく実際に保育を経験しているからこそ発揮できるその場その場での対応力や判断力、正しく気づく力に圧倒されて、憧れの気持ちを抱きました。

夏休みいっぱいを準備に当てるリトリートは、事前にコツコツと準備するという、自分が一番苦手な作業が基本になっているため、その準備期間はとてみたいへんでした。けれども、その準備にしっかりと参加したことで、ここをやり遂げれば終わった時に全力を出せたという実感が得られる、ということに気づきました。そして、自分を振り返ってみて、これまでは、「なんとなく事が過ぎて行った、なんとなくできた」という気分でものごとが終わっていき、そのためにあまり自分の身につかないままできたということに気づきはじめました。

「遊びではない。でも仕事でもない」と初日に先生が言われたときには、たいへんな3日間になるかもしれないと思いましたが、実際に子どもと関わり、迎えてくださった教会の方々や、緩和ケア病棟の患者様と交わるなかで、真剣な関わりの中で自分が気持ちの集中を切らすような関わりはできないと感じました。自分自身の気持ちの甘さを感じて、2日目にはこのままリトリートを続けようかと迷うこともありましたが、そんな時に先生にこれからどうするかは自分で決めなさい、という言葉がかけられて、普段の自分ならさらに落ち込むかもしれませんが、そのときは「やるって決めて来たんだから最後までやる」と奮い立ち、そんな自分に自分自身が驚きました。

決めるのは自分、その結果、3日間をやり遂げるか、途中でそれなりの満足感だけをもって帰宅するかも自分にかかっている、

その決断を誰かに依存することも、逃げてしまうことも許されない状況に陥った結果、やる、という気持ちが燃え上がって最後までやりきることができた…それは、キリスト教の言葉で言えば、神様の何か強いご計画のうちにあったことなんだろうなと思っています。そして、そうやってやり遂げることができたのは、色々な支えがあってこそ、と実感しています。先生が私をリトリートに誘う時、「リトリートは何か特別なことをしているわけではないけど、何かを感じ取って、どこか自分にとって益となることをもらえる」と繰り返し話していました。その言葉に惹かれるように頷いたのも、もしかしたら自分の内に聖霊が働いたということかも知れないとも思います。

人前では大変だとか嫌だとすぐに言ってしまう自分と、確かに何かを得られたと1人で納得する自分と、どちらが本当の自分なんだろうと不思議になる気持ちを抱いて、今も悩みながらこの文章を書いています。そして、このリトリートでいただいたこの問いの答えは、もっと後になってからわかることなのかも知れないと思います。

これから、1人で自分の内面やこれまでの歩みを考えたり、振り返ったりする時にこのリトリートのことを思い出して、何か行動する時、決断する時の自信になるのだらうと思います。数年後、数十年後に、この体験が、どんどん自分の糧となるように広がっていくのだらうと内心楽しみに思いつつ、自分らしく人生を歩んでいきたいと思っています。

いろいろな問いが心の中を行きかっていますが、そういうことをすべて含めて、このリトリートに行つてよかったってことだと、そう思える3日間でした。

リトリートを振り返って

保育科 2年
藤原 千瑛

8月25日から27日にかけて、長野県の小布施町での「リトリート」に参加しました。ここでは、普段の学生生活では経験できないことや、学べないことがたくさんありました。

一日目には、絵本作家であるさとうわきこさん主宰の私立絵本美術館『小さな絵本美術館』へ行きました。さとうわきこさんのお話を聞いたり、展示している絵本や、その原画を見てまわったりしました。お話を聞いて、さとうわきこさんの絵本の印象が少し変わりました。

2日目には、ミス・パウル保育園へ行き設定保育を行ったり、通所リハビリや緩和ケア病棟で患者様にハンドマッサージやミニコンサートを行いました。

設定保育では、事前準備をたくさん行っていたけれど、子どもの前でうまくできるか不安でした。前日の夜まで練習したり、変更したり、試行錯誤して作り上げました。本番では、子どもと一緒に楽しみながら設定保育を行うことができ、保育の実践も経験することができました。

通所リハビリや緩和ケア病棟でのハンドマッサージでは、たくさんの人とふれあいました。私は人見知りで、うまくお話ができるか不安でした。しかし、「今日は何されたんですか?」「ここでは何が有名ですか?」とこちらから尋ねると、利用者の方々は嬉しそうにご自分のことや、ご自身の地元のことについてお話してくださいました。ミ

ニコンサートでは、みなさんの知っている「ふるさと」や「紅葉」とともに聖歌もうたい、また、長野の県歌として地元の方々に親しまれている「信濃の国」をうたったりしました。

聖歌をうたっているときや、「紅葉」や「ふるさと」をうたっているときには静かに耳を傾けたりあまり声を出さずにそっと口ずさむ人が多かったのですが、「信濃の国」になると、みなさんが嬉しそうに元気にうたってくださいあって、信州の方々に深く愛された歌であると感じました。緩和ケア病棟では、涙を流す人もおり、私も少し涙が浮かんでしまいました。とても、貴重な経験だったと思います。

夕食では、私たちを迎えてくださった新生礼拝堂の信徒様たちと一緒にお話をしながらご飯を食べ、ミニコンサートを行いました。そこで食べたミルクィーバンズが驚くほどおいしく、忘れられません。新生病院の初代の看護師長だったミス・パウルさんの直伝のパンだそうです。夕食会でのミニコンサートは、一緒にご飯を食べ打ち解けた後だったため、とても楽しく歌うことができました。ここでも「信濃の国」をうたいましたが、合いの手まで入れてくださって、私たちをほんとうに歓迎してくださいっていることが伝わってきて、とても温かい方たちだと感じました。信者の方から、アンコールのリクエストがあり驚きましたが、その場で学生たちで相談して即興で「パプ

リカ」を踊り、とても楽しい夕食になりました。

3日目にも、新生病院の敷地内に新しく解説された小布施複合介護施設でのミニコンサートとハンドマッサージをおこないました。ここでは、私は初めてマニキュアを塗りましたが、その利用者さんがとてもうれしそうに手を上にあげて爪を見せたり、手を洗ったら取れてしまわないかと心配されたり、とても喜んでくださって、ハンド

マッサージもマニキュアもやって良かったと思いました。

今回のリトリートでは、普通に生活しているだけでは経験できないことがないことがあったり、設定保育を作り上げる大変さや楽しさを感じたりすることができました。リトリートに参加した専攻科の先輩との距離も縮めることができたことも、とてもうれしいです。リトリートへ行って良かったと心から思いました。

信州リトリートに参加して

保育科 2年 竹原 美咲

私は信州リトリートに昨年も参加させていただき、たくさんのことを学ぶことができたので今回も参加させていただきました。昨年とはまた違った視点で、新たにたくさんのごことを学び、成長できたと感じています。

一日目は、小布施町に向かう途中で、岡谷市の「小さな絵本美術館」に行きました。そこではたくさんのお絵本の原画が展示されていたのですが、特に、私の好きな絵本の一つである『ばばあちゃん』を手掛けておられる、さとうわきこさんの『ねずみのなる木』という作品の原画が印象に残りました。その原画を見たときに、一つ一つの物語の世界観がしっかりあって、そんなに細かい説明や絵本の文章がなくても世界観はしっかりと伝わるということを改めて実感することができました。そして、私自身が教育実習で集団遊びを子どもたちに伝え

るのに、まずは言葉で伝えなければと細かくかみ砕きすぎて、かえってうまく伝えられなかったことを思い出しました。何が大切なのかを決めて、ぶれないようにしながら余分な要素は削ることで、伝えられることもあると学びました。

原画の展示されていた『ねずみのなる木』の絵本は美術館内のショップで販売されており、そこで購入したその絵本に、ちょうどその場に来てくださったさとうわきこさんご本人の直筆のサインとイラストを描いていただいて、嬉しさとともに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その夜には、小布施町の新生病院のゲストハウス「スタートハウス」で、先輩方と翌日の設定保育の練習を繰り返し行いました。専攻科の先輩方や現役の保育者として活躍する先輩は、頼りになるだけではなく、その準備を通して感じられた保育に対して

の姿勢や考え方が私にはとても素敵で、いつか追いつくための目指すべき指針だと思いました。

二日目の最初の活動は、新生病院内の保育園「ミス・パウル保育園」で、午前中の保育時間をいただいて設定保育を行いました。前日に納得いくまで練習し、内容を見直したおかげで、子どもたちを前にしても不安や引け目を感じることはありませんでした。準備を重ねた分、私自身はかえって緊張して自分だけに集中してしまいましたが、先輩は子どもの様子やその場の雰囲気を観ながらどうすべきかを的確に考えて、そのつど私にアドバイスをしてくださいました。子どもたちも集中して見てくれて、みんなを惹きつける先輩方の凄さを感じるとともに、私もそうなるという強い意思を抱きました。そして何より、子どもたちの可愛らしさと、興味のあることに集中する力を直接学ぶことができました。

昼食をはさんで、午後には新生病院の付設されている通所リハビリ施設でのコンサートとハンドマッサージを行いました。ここでは、介護現場での私自身のアルバイト経験を活かして、高齢者の方々と親密なコミュニケーションをとることができました。明るくて親密な雰囲気、素敵な交流の場をいただいて、いろいろな方のお話をうかがいました。特に、ハンドマッサージというツールを使うことで話やすい雰囲気作りができたと思います。環境構成を考えることは保育においても介護においても大切なことなので、私自身も相手との親密でうちとけた関係を作れるような環境づくりのための技術やツールをより多く身につけ、相手やその場に合わせて工夫できるようにしたいと思います。

続いて、新生病院内の緩和ケア病棟でも、ミニコンサートとハンドマッサージをやらせていただきました。普段あまり関わりの持てない環境で、病棟に入るまでは特別な緊張感がありましたが、仲間たちや先輩方と方と一緒に活動する中でリラックスできて、深い交流ができた時間になりました。午前には新生病院や礼拝堂、スタートハウスの歴史や、緩和ケア病棟について学ばせていただき、ただ交流するだけではなく、病院や会う方なことなど考えつつ交流を持ちハンドマッサージを行うことができました。三日目の信徒の方々の夕食会では、リトリートに参加しなかつたら共通点が当ても合うことがなかったと思うと、神の導きではないかと考えた。

三日目のスタートハウスの大掃除では、お世話になった感謝の気持ちと、リトリートという大きなイベントの締めくくりとして掃除を行った。掃除と聞くとあまりいい気持ちはしないのだが、今回は進んで掃除をして感謝の気持ちを伝えたいと思うことができた。これも神様が見てくれていると思うことができたからではないかと思う。

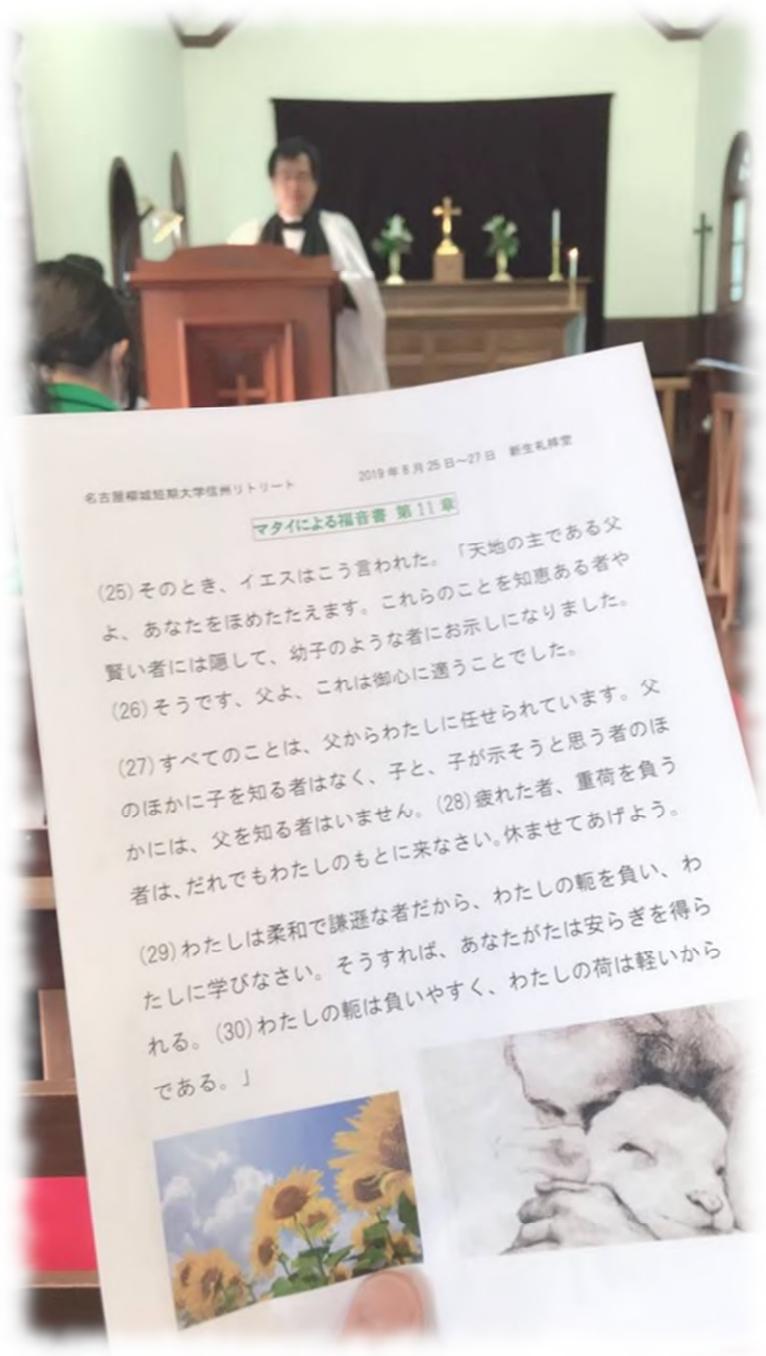
この二泊三日を通して学んだことを活かし、学生生活最後の保育実習や就職、アルバイトなど時間一つ一つをたいせつにしていきたい。そして、先輩方のように胸を張って保育を学んできたといえるように、気持ちを引き締めて残りの学校生活をおくっていきたい。



小布施町の新生病院のみなさま、ことに、詳しいレクチャーをしてくださった徳竹秀子さんと、緩和ケア病棟のみなさま、通所リハビリテーションのみなさま、心づくしのもてなしをしてくださった新生礼拝堂の信徒のみなさま、小布施複合型介護施設のみなさま、ミス・パウル保育園の先生方と子どもたち、そして岡谷市の小さな絵本美術館のみなさま、特にさとう わきこ館長に、心からの感謝とお礼をお伝えしたいと思います。



ありがとう ございました。



名古屋柳城短期大学信州リトリート 2019年8月25日~27日 新生礼拝堂

マタイによる福音書 第11章

(25) そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。」

(26) そうです、父よ、これは御心に遇うことでした。

(27) すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかに、父を知る者はいません。(28) 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

(29) わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。(30) わたしの轡は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」



発行日 2020年3月16日
編集 名古屋柳城短期大学 キリスト教センター(宗教委委員会)
発行 名古屋柳城短期大学
〒 466-0034
名古屋市昭和区明月町 2-54
TEL 052-841-2635(代)
FAX 052-841-2697